



湾岸・アラビア半島地域ニュース

サウジアラビア：GCC 労働・社会事業相会合の開催

(11月14日付現地報道)

1. 11月13日、サウジアラビアで第24回GCC労働・社会事業相会合が開催された。
 - (1) 同会合では、来月ドーハで開催されるGCC首脳会議への11の勧告が承認された。同勧告の主な内容は、外国人労働力への依存度を下げつつ、GCC諸国民のリクルートを促進させていくことである。
 - (2) 同会合では、バハレーンによる「リクルートと雇用のためのプロジェクト」の経験から学ぶ方途についても議論された。同プロジェクトに関し、ゴサイビ労働相は、「同プロジェクトは、外国人労働力の輸入コストをある程度上げることによって外国人労働力輸入の利便性を低めていくものである」と述べた。

2. ゴサイビ労働相の発言
 - (1) 今回の会合においても、前回までと同様に外国人労働者問題が主要議題であり、サウジアラビアのサウダイゼーション（サウジ人化）を始めとする各国による労働力の自国民化への真剣な取り組みについても議論が行われた。
 - (2) （GCC労働相会合と社会事業相会合を分けることについて問われ）両会合を分けて開催することが既に決定されているので、今回の両省合同会合は最後のものとなる。

3. アル・ハミード労働省次官の発言
 - (1) GCC諸国間では、外国人労働者による犯罪、加盟国で罪を犯した外国人労働者が（国外追放後に）再び別の加盟国に再入国することを阻止するための調整プロジェクトが検討されているが、本会合では議論されなかった。同プロジェクトに関し、指紋照合等の基礎的な技術面での調整を行うには時間がかかるが、加盟各国の関係政府機関は外国人労働者による犯罪に関心をもっており、同プロジェクトが別の加盟国への犯罪の伝播に歯止めをかけることに資すると期待している。
 - (2) GCC諸国が人身売買を行っているとは非難する国々があるが、かかる国々こそ醜い人身上の取り扱いを行い、特に女性の性に関して非道徳的な行為を行っている。かかる国々は、人身売買の正しい意味から外れた理解をしている。GCC諸国における外国人労働者は契約に基づくものであり、強制労働を強いられている労働者は一人もいない。労働力を輸出する各国の大使館から、GCC諸国が自国民労働力の一層の受け入れを認めるよう圧力を受けるほどである。

4. アル・カアビUAE労働相の発言
現在、GCC諸国には約1千万人の外国人労働者が存在し、彼等の母国への外貨送金額は年間約300億ドルである。最大の外国人労働力輸入国はサウジアラビアであり、その数は約700万人である。

本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799